

復命年月日	令和7年2月17日(月)
出張年月日	自 令和6年10月17日(木) 2日間 宿泊 有 至 令和6年10月18日(金)
	自 令和6年11月19日(火) 1日間 宿泊 無 至 令和6年11月19日(火)
用務地	①福岡県飯塚市、②大分県別府市、③佐賀県佐賀市
用務	議会ICT化特別委員会行政視察
てん末 (資料添付)	<p>①福岡県飯塚市議会(10/17(木) 15:00~16:30) 【視察内容】 ・議会ICT化の取組について</p> <p>②大分県別府市議会(10/18(金) 9:30~11:00) 【視察内容】 ・議会ICT化の取組について</p> <p>③佐賀県佐賀市議会(11/19(火) 10:00~11:30) 【視察内容】 ・議会ICT化の取組について</p> <p>※詳しい視察内容及び所感については別紙のとおり</p>

10/17 福岡県飯塚市

<説明内容>

議会会議の資料配布にかかるコスト削減と各種資料の集約による業務効率化が、ひいては議会活性化につながるものとして、タブレット端末の導入による議会会議のペーパーレス化を図るべく、平成 28 年 1 月の議会運営委員会による兵庫県西宮市の視察から取り組みを開始し、同年 3 月には代表者会議にて、議会ペーパーレス化に向けたタブレット端末導入の検討を行うことを決定。その後、導入スケジュール、タブレット端末の仕様、使用基準等の検討・協議を行ってから、平成 29 年 9 月よりペーパーレス会議の試行、平成 30 年 2 月から、ペーパーレス会議の本格運用を開始し、現在に至る。

主に使用するアプリケーションとしては、議案書や予算書、その他委員会の会議資料の閲覧用は OS やネットワーク環境が異なっても利用可能な Sidebooks、災害時の情報伝達、必読情報の連絡用が LINEWORKS で、職員は Wi-Fi モデルの Windows タブレットやノート PC を使用している。

ネット環境としては、議会棟には費用を抑制するために、光インターネット回線による Wi-Fi 環境を構築し、職員 PC 用に、無線 LAN アクセスポイントを各階に設置している。

タブレット導入や運用にかかる費用についての個人負担は、個人でインストールしたソフトの利用や過失による機器の破損時の修理費用以外は、基本的になし。

導入効果としては、①経済効果 支出増加額 2,492 千円（導入・運用費用：5 年平均）－4,414 千円（印刷製本費・紙代・業務削減時間）＝▲1,922 千円/年 ②情報伝達の迅速化・正確性等の災害発生時の有効活用。

通信量に関しては、議員 27 名で契約上限 100GB だが、議会棟では Wi-Fi 接続、自宅や事務所でも Wi-Fi 接続をお願いしており、契約上限にはまだ余裕がある。

今後の課題としては、タブレット端末機能の更新に伴うスキルアップや、習熟度アップ、また Word・Excel といったソフトや、有料高機能アプリの導入等である。

◎所感（松尾）

飯塚市は、まず、今から 8 年も前に、既にペーパーレス化を目的としたタブレット端末の導入を検討し、即座に導入する方向で取り組まれたことに驚くと共に、我々伊万里市議会も、まずは一刻も早く、タブレット端末を導入し、その直接的な効果もさることながら、将来へ向けた更なる ICT 化の推進につなげて行かなければならないと感じた。

タブレット端末の導入コスト、運用コストに関しては、通信キャリアや機種、インターネット環境を含む契約の内容によって、いろいろな種類がありそうなので、イン

ストールするソフトウェア、アプリケーション、通信費用を含めて、導入前に十分に検討し、伊万里市議会に最も適した契約で、導入する必要があると思う。

また、タブレット端末を導入した場合の議員の個人負担に関しては「基本的にはない」とのことで、個人的には予想通りであった。

◎所感（金原）

ペーパーレス化の事業では、印刷や製本にかかるコスト削減は飯塚市議会のように大きな自治体では結構大きなものであると感じました。また、Wi-Fi 環境に影響しないセルラーモデルのタブレット端末は外出先での資料閲覧やメール、インターネット検索に便利であり、災害発生時での情報取得には欠かせないものであると感じました。

タブレット端末を導入し、SideBooks を運用している全国 69 市区議会で Word・Excel を導入している議会は、たったの 1 市のみとは意外であり、伊万里市においてはぜひ導入を推進していきたいと思えます。

◎所感（力武）

タブレット導入は平成 28 年から他市を視察開始、平成 29 年に試行開始、完全移行が平成 30 年 2 月にペーパーレス化に移行されていました。

導入効果で 1,922 千円の削減されており、大きな効果であると思えました。

ペーパーレス化により議案書、予算書等の本会議、委員会等の会議資料、過去の会議録や議会だより、市広報誌などが簡単に閲覧できることは便利度も高いと感じ、連絡等はラインワークスを利用されていましたが、文字として残ることもあり情報の取り扱いなどは留意する必要性を感じました。

Word、Excel の導入は検討しているとの事でしたが、必要性を考えると伊万里市においても、有料になることから同じく検討すべきことだと思えました。

◎所感（川添）

(1) この事業は今から約 6 年前の平成 28 年度に、議会会議ペーパーレス化に向けたタブレット端末導入の検討を行う事を決定。その翌年度の平成 29 年度には本格導入しペーパーレス化に向けた協議も開催。導入の経済的効果として、予算書・決算書等の印刷製本費支出額が以前は約 370 万円に対しペーパーレス後は 0 円に。また人的コスト削減にもつながり、タブレット端末導入の支出金額よりも約 200 万円の経済的効果があった。本市においても大いに期待出来る削減効果ではないかと思う。

- (2) タブレット端末の機能は随時更新されていくので、継続して研修が必要であると説明。それは至極当然の事であると思う。
- (3) 使用内容の一つとして議員28名全員で、月に100GBの契約上限では少ないのではないかと感じ質問したが、飯塚市議会では特に不都合はないと回答。
- (4) 飯塚市はこの導入事業におけるタブレット端末使用に際し議員に対し誓約書に署名、議長宛に提出させている。また、「飯塚市議会会議用システム端末機使用基準」という全部で14条からなる「告示」も制定されており本市も参考にすべき点であると考えている。

◎所感（香月）

- ・印刷製本にかかるコストの削減効果予測は、冊子820部や用紙約163,000枚、金額に換算すると年間約350万円程度の経費削減が見込まれている。結果的に現在、年間タブレット端末に関する支出増加分が2,492千円、各種製本費や印刷費、またそれに携わる職員の人的コスト減などの支出減額分は4,414千円、差引マイナス1,922千円の削減効果となっている。
- ・タブレット端末はキーボード付のサーフェース（セルラーモデル）が採用、ソフトに関してはサイドブック、ラインワークスなどが採用されていて使い勝手も好評のようである。

10/18 大分県別府市

議会 ICT 化特別委員会 視察研修報告書

要旨 調査研修活動のための視察 ～議会 ICT 化の取組について～

期日 令和 6 年 10 月 17 日（木）～10 月 18 日（金）

場所 1. 10 月 17 日（木）飯塚市議会視察

2. 10 月 18 日（金）別府市議会視察

対応者 2.別府市議会 事務局

1) 別府市議会への質問項目

内容

① 議会 ICT 化の取組状況について

回答 令和 5 年よりタブレット端末による議会運営を導入

- 議案、会議録、議運資料等すべてタブレット配信
- 執行部からの情報、資料提供等も配信
- 本会議を除く、常任委員会、会員協議会、協議等の場の議事運営もタブレットで進行
- 議員協議で必要な時にリモートで開催する

② ICT 化推進の経緯と、問題点、解決方法について

回答 令和元年 6 月 ～市より協力の要請

" 12 月 ～別府市議会タブレット導入検討委員会の設置

令和 3 年 12 月 ～別府市議会 ICT 活用推進委員会の設置

令和 4 年 2 月 ～タブレット端末の試行運用開始
(ペーパー併用)

令和 5 年 6 月 ～タブレット端末 本格導入開始

○ 推進する上で生じた問題

回答 イ. 操作習熟度の差 (対議員)

操作研修会の開催、事務局職員のスキルアップによりフォロー

ロ. 費用対効果 (対市民) ～ペーパーレスの定量的効果
効率化の定性的効果を含め、ICT 化に対する説明
対応

ICT化を進めるに当り、参考された市町村は。

回答 ~参考にした市町村

- 杵築市議会、国東市議会（R2年にタブレット先行導入市議会へ視察）
- タブレット導入契約等についてはインターネット等で他の市議会の情報を確認（安城市、飯塚市、米原市、北九州市へ管理運用基準等）
- 他、入札、仕様書、ビジネスチャット等については、久留米市、中津市、日田市、宇部市、岡山市等の情報を参考にした。

議会 ICT 化について、今後の課題及び、展開については。

回答 ~今後の課題

- 議会活動（委員会）、議員活動の充実、リモート会議、情報の収集、議会情報の発信、SNSの活用の推進を計る。

◎所感（山口）

~改めて感じる事は、個人として市議会議員としての仕事、議員活動に重きを置いていた、地域の又、伊万里市の発展を願う行動に注視して来た。今回の視察で議会 ICT 化は、市と一体化し前に進めるべきと提案したいと考えます。

◎所感（松尾）

令和元年6月の市の「BEPPU×デジタルファースト」宣言により、デジタルのちからを最大限活用する施策が打ち出されたところからのスタートで、即座に、タブレット端末導入検討委員会を設置され、行政側（市長）からもペーパーレス化へ向けて議会も協力をして欲しい旨の発言があったこともあって、タブレット端末導入に向けての様々な協議・検討を行った上で、令和3年12月にはICT活用推進委員会を設置して、非常に積極的に推進されていることに、改めて感心すると共に、飯塚市に続いて、別府市でも、我々伊万里市議会の遅れを痛感せざるを得なかった。

別府市も通信費を含めて、タブレット端末に関しての議員の個人負担はなく、飯塚市と同じく、私的利用に関しては利用基準内に明記するだけで、「基本的には、個人のモラルに任せている」ということであり、私の予想通りであった。

このタブレット端末に関して、議員個人の費用負担がないことは、「紙と比較して

使いづらい」など、いろいろと考える前に、「議会の仕事をするために市の予算を使って貸与されているのだから、タブレット端末を使いこなさなければならない」という義務感を生むことにもなると思った。

◎所感（金原）

令和5年の改選後からタブレット端末を本格導入ということから本市においても参考になる案件が多かった。中でも執行部管理職が使用するペーパーレス会議システムはSideBooksであるのに対し、議会使用分はmoreNOTEとシステムが異なっており、この点においては今後議論の余地があるように感じました。別府市議会においても当初の研修はSideBooksで行っていたが、先行自治体の視察の結果、moreNOTEを採用していることは本市においても参考になる例であると感じました。

◎所感（力武）

令和元年6月に市が「BEPPU×デジタルファースト宣言」、市からの協力要請を受け12月にタブレット端末導入検討委員会を設置、令和3年12月にICT活用推進委員会を設置され令和5年に本格導入を開始されていきました。立ち上がりから5年程かかっており、費用対効果、議員の操作習熟度など様々な議論を重ねられたようです。

導入前にはタブレット端末操作体験会、ペーパーレス会議システム操作研修会を実施されており伊万里市でも数回の研修が必要であると感じました。

議案書、予算書など必要なデータをタブレットに格納でき、書類を持ち歩かなくてよい、必要な時に資料を簡単に確認できることは議員にとってタブレット導入は必要であると強く感じました。

◎所感（川添）

(1) 令和元年6月「BEPPU×デジタルファースト」を宣言。デジタルの力を最大限活用する政策により市民サービスの向上、地方創生、生産性の向上等、観光立国日本におけるモデル都市を目指す。それらを推進するためにすべての会議のペーパーレス化の実現を目指し、ペーパーレス会議システムを導入。その後「タブレット端末導入検討委員会」の設置。人員は各会派から選抜された6名の議員で構成。本市も来年度の令和7年度にはこの様な委員会の必要性を感じる。

(2) 別府市におけるこの事業の当初の費用対効果は年間で約140万円の赤字であった。その後、年間経費の削減と数値化されない定性的効果により費用対効果は高い、と説明があり疑問点も残った。本市では当初であれ費用対効果が

赤字になってはならないと思った。

- (3) 政務活動費による通信経費の一部負担を中長期的に検討する事で費用対効果を更に高める事が出来るという説明は納得した。
- (4) 別府市では執行機関である行政専用ネットワークとして「サイドブックス」を採用。議会側は敢えて違う富士ソフトの「moreNOTE」を採用している所も興味深かった。
- (5) データ通信契約においては25名の議員で、1ヵ月当たり1台50GBまでということであり飯塚市とは違って豊富な容量であると思った。
- (6) 各議員にタブレット端末を貸与するにあたって飯塚市同様、ビジネスチャットの「ラインワークス」の使用も議会運営の効率化の為に必要性を感じた。

◎所感（香月）

- ・定量的効果（削減効果）は、印刷製本や人件費など約2,100千円、発生費用はタブレットの導入や運用に関わる費用として10,500千円が見込まれている。しかしながら、定性的効果（作業品質の向上など数字では表せない効果）を加味した中で費用対効果を図った場合、費用対効果は高いと結論付けられていた。
- ・タブレット端末は、ipadプロ12.9インチ（セルラーモデル）が採用されており、ワイド画面で視認性が良い。ソフトに関してはmoreノートが採用されている。

（総括）

- ・両市議会共に時代に即した取組みであり、本市議会も早急に導入を目指す必要性を強く感じた。それを実現させるためには、まずはその予算確保を図る上においては効果予測をしっかりと算出し、そのことを執行部や議会はもちろん市民に向けたコンセンサスも図ることによって、「議会ペーパーレス化」や「議会の見える化」の早期実現が可能となると思われる。

11/19 佐賀県佐賀市

<説明内容>

事前提出した我々の質問 23 項目に回答する形で、詳細にご説明頂いた。

◎主な説明内容

①タブレット導入の目的と経緯について

タブレット端末の導入目的としては「ペーパーレス会議システム（グループウェア機能付き）の導入」であり、平成 26 年 9 月に議会運営等改革検討会からの「議会の ICT 化」に関する答申受け、10 月から議会運営委員会で具体的な検討を開始し、翌々年の平成 28 年 2 月に「議会内のペーパーレス化（タブレット端末の導入等）の方針を確認。

平成 28 年 6 月に「可視化できる導入結果」の試算結果を議会運営委員会に提示し、議会事務局から同 6 月議会で補正予算要求を行い、12 月定例会から一部運用を開始した。

②ペーパーレス化における紙使用量と経費削減の試算結果

紙削減量（最大） 236,000 枚減

経費削減（最大） 343,8,000 円減（印刷費・紙代・製本費・通信費）

※現時点では、まだ一部ペーパー併用もあり、上記の削減までには至っていない。

③基本的性能と通信環境について

機種は iPad Pro で、クラウド方式によるファイル管理及び共有機能やスケジュール管理及び共有機能を有し、どこからもアクセス可能であることが条件となるため、Wi-fi 通信＋セルラー通信機能を使用しており、議会棟の Wi-Fi 環境整備が今後の課題となっている。

④タブレット端末の導入コストと経費負担について

・導入・ランニングコスト

端末 50 台 2,210,670 円（初期設定、ソフト導入費用含む）

ランニングコスト（50 台・36 月） 6,217,000 円 ※リース

通信プラン 50 台（36 月） 4,217,400 円

SideBooks 150 アカウント（1 年） 1,848,000 円（執行部側）

議会が策定した「ICT 基本計画」があり、タブレット端末がないと議会活動及び議員活動が行えないことから、全額公費負担としている。

⑤タブレット端末の導入のメリットとデメリットについて

<メリット>

・持ち運び可能なため、様々な場所で使用できる。

・資料等のペーパーレス化が実現できる。

<デメリット>

- ・操作習熟度に差がある。
- ・資料にメモをする際に、紙より難しい場合がある。
- ・バッテリー充電の確認が必要。
- ・Wi-fi 環境の整備が必要。(通信容量制限があるため)

⑥タブレット操作支援について

各会派内に ICT 推進員を配置して、タブレット操作の支援を実施。

◎所感（山口）

佐賀市議会の視察研修を受けて、タブレット端末の導入経費、ランニングコストの負担割合や事業者の選定基準、方法等と併せて機種と基本的な導入台数、運用開始の時期を決定し予算の確定につなげるなど、他にも運用状況や手順についても説明を受けて感銘しました。当市議会においても早期にタブレット端末の導入を推進させるべく、検討委員会を立ち上げることが肝要と感じました。

◎所感（松尾）

佐賀市の場合、先に視察した飯塚市と同様、8 年も前にペーパーレス会議システム（グループウェア機能付き）の導入を目的として、タブレット端末導入の検討を開始され、現在の実際の導入・運用に至っているが、基本的に「デジタル化・ペーパーレス化は時代の趨勢であり、いち早く取り組むべきもので、まずはタブレット端末の導入が必須」という強い意志があったことが伺えた。

そのことにより、既に、議会関連業務の紙使用量の削減、議会事務局、執行部、議会活動、議員活動の業務効率化を含む大きなメリットを得られていると考える。

今回の視察で頂いた「佐賀市議会 ICT 化推進基本計画」と「佐賀市議会タブレット端末の運用に関する要綱」は、大いに参考にできると思っており、我々、伊万里市議会としても、少しでも早く ICT 化の第一歩として、タブレット端末導入を目指すべきと、改めて強く感じた。

また、最初から議会 ICT 化の全体像を詳細に描いて進めて行くよりも、まずは、ペーパーレス化を主目的として、タブレット端末を導入し、議会関連業務のデジタル化を図りながら、ICT 化へ向けたその先の展開を探っていくという考え方も必要ではないかと感じている。

◎所感（金原）

佐賀市議会では平成 28 年 10 月からタブレット端末を議員へ貸与と、時期が早くその導入にあたっての経緯や環境整備の構築は非常に参考になりました。またタ

タブレット端末を庁舎外に持ち出して使用する際の使用基準も明確化されており、そうした環境整備も参考にしなければならないと思いました。

伊万里市においても厳しい財政状況が続くなか、議会として ICT を進めていくためには、ICT の活用についての方向性を明らかにしなければならないし、そしてその中で ICT を推進していくためには体系的にまとめられた計画が必要であり、実施時期に合わせて全ての議員が自己研鑽し取り組んでいかなければなりません。そうすれば ICT 化は費用対効果においても市民サービスにおいても大きなメリットが生まれてくると感じました。

◎所感（力武）

タブレット端末により、災害時などの有事の際に各地の状況を議員が撮影して共有することや市の対応状況等の情報をリアルタイムで収集すること、オンライン会議を開催して速やかに議会の意思決定を行うことができるなど緊急時の迅速な対応、また市民への情報公開の充実にも役立っていると感じた。

タブレット端末導入は、改めて議会活動の効率化かつ透明性をもって行うことができる取り組みであると思った。

◎所感（川添）

議会でのタブレット端末運用の目的として「ペーパーレス会議システム」の導入のためという説明。経緯としては今から約 10 年前の平成 26 年に「議会運営等改革検討会」から「議会の ICT 化」に関する答申があり、その後、議会運営委員会で答申の具体的な検討を開始。2 年後の平成 28 年、議会運営委員会で議会内のペーパーレス化、タブレット端末の導入等の方針を確認。議会事務局でタブレット端末等の経費を 6 月に補正予算要求。12 月定例会から一部運用開始。

この様に佐賀市議会では構想から実用までに約 2 年間でなし得ている事案なので本市に於いても大いに参考にすべきスピード感のある経緯であると感じた。

また、ペーパーレス化による経費削減効果額は最大で年間 23 万 6 千枚、約 343 万円に上がると説明。初期投資費用こそ約 1 千万円掛かっているが先を見越した費用対効果としては十分な数値ではないかと思う。

最後に、「佐賀市議会 ICT 推進基本計画」「佐賀市議会タブレット端末の運用に関する要綱」「佐賀市議会タブレット端末使用基準」等、資料を多数頂いているので参考にしながら伊万里市議会においても早急にタブレット端末導入の推進を図るのが肝要と考えます。

◎所感（香月）

・ペーパーレス会議システム（グループウェア機能付き）の導入を目的に、平成 29 年 9 月に議会運営等改革検討会から「議会の ICT 化」に関する答申行われてから、平成 28 年 12 月の定例会においてタブレット端末の一部運用が開始された。タブレット導入推進にあたり、特に苦慮された点として、執行部、議員間などのルール作りや議案資料・PDF 資料の種別の調整などが挙げられた。

他には、各議員の操作習熟度に差がありそのサポート体制も考慮に入れておく必要がある。

システム運用のアプリとして「サイドブック」が選定された。システムやタブレット端末に求められる基本的な機能を基に判断がなされた。

タブレット端末導入のメリットとして、持ち運びが容易であり様々な場所での使用が可能であり、資料等のペーパーレス化が実現できる点大きい。逆にデメリットとして、使用者により習熟度に差があるほか、資料にメモを記入する際は紙より難しい場合もある。

・佐賀市議会においては、「佐賀市議会推進基本計画書」が平成 27 年 2 月に策定され総合的な ICT 推進のマニュアルともなっており、本市においても早急な検討課題の一つであると考えます。